

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

個人権課題をテーマとして効果的に取り扱った実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

兵庫県たつの市

○学校名

たつの市立神岡小学校

○学校のURL

<http://kamiokasyo.city.tatsuno.hyogo.jp/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年2学級、【特別支援学級】2学級、【合計】14学級

○児童生徒数

【全児童数】293人（平成23年12月9日現在）

（内訳：1年生36人、2年生46人、3年生45人、4年生56人、5年生62人、6年生48人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

志を抱き 故郷を愛し 心豊かにたくましく 生きる子の育成

【人権教育に関する目標】

（基本目標） さまざまな活動や体験を通して確かな人権感覚を身に付け、「自己実現」と「共に生きる社会」の構築に向け主体的に取り組む意欲と態度を育てる。

（重点目標）・ 同和問題をはじめとする人権問題を解決する教育の推進を図る。

・ 将来への夢をもって、自己実現を図ることができるよう、自らの生き方を考え、自尊感情と確かな人権感覚を培う。

・ 生活に問題意識をもち、矛盾や人権問題について自覚し、みんなが人権を共有している喜びを実感できる生活を創出する。

・ 地域の願いと課題を明らかにし、臨機応変かつ的確に対応して、個に応じた指導・支援を進める。

○人権教育にかかる取組の全体概要

○ 学校の教育活動すべてを通じて実践する、系統性を重視した指導計画の効果的実践

（発展的な再構築に向けた取組）

・ 人権教育カリキュラムの整備と授業研究を行う。

・ 効果的な学習教材の選定・開発をする。

・ 体験的な活動を取り入れる。

○ 児童の自主性を尊重した指導方法の工夫

・ 学習形態や指導方法を工夫する。

・ 多面的、多角的に考える力や合理的なものの見方、考え方を育てる。

・ 達成感を味わわせ自立心を養う。

○ 人権教育推進に関する点検・評価アンケートの教職員・児童生徒・保護者への実施及びその結果の分析と活用

- ・児童一人一人の教育上の問題と自尊感情形成上の課題を把握する。
- ・地域の願いと課題を明らかにする。
- ・教職員による点検・評価、児童による評価、保護者による評価を行う。

3. 特色ある実践事例の内容

◆教科書の歴史的記述に基づいた学習を通じて、指導方法の改善・充実を図る取組

(取組のねらい、目的)

差別の歴史の学習は、過去にあった出来事を知識として学ぶことではなく、この学習を通して得た新たな見方や考え方を現代の社会にある様々な出来事について考えるときの道しるべとするという視点に立って学習を推し進める必要性を感じ、この取組を行った。

(取組の内容)

第6学年 社会科学習指導案

1 単元

「徳川の世」は、どんな世の中だったの —近代医学を支えた人々—

※使用教科書「小学校の社会」（日本文教出版）

2 単元設定の理由

- 江戸時代後期に、蘭学を学ぶ人々が現れ、医学や地理学、天文学が発展した。また、国学の広まりの中から、身分により支配される世の中や幕府の政治を批判する声の人々の間で大きくなり、鎖国から開国へと時代が流れていったことを学習する。中でも、「新しい学問」では、杉田玄白や前野良沢が解剖に立ち会った時、体の仕組みが『ターヘル・アナトミア』の解剖図と同じであったことに驚き、その訳書『解体新書』を世に出すことができたことが取りあげられている。また、挿絵の中には、解剖を行った人が「農民や町人とことなる身分とされた90歳の老人」と記述されている。そして、近代医学が発展する契機には、こうした差別された人々の存在があったことを学ぶことをねらいとする。
- 本単元の学習においても、江戸幕府の身分による支配やさまざまな政策、そして、新しい文化や学問のおこりについて、資料をもとに調べ学習をさせる。中でも蘭学の発展の資料については、玄白自身が晩年に書き残した回想録『蘭学事始』において、腑分けの様子が詳しく書かれている部分を活用し、児童に江戸時代の身分制度の中で「ことなる身分とされた人々」が近代医学の発展に大きく貢献したこととともに、彼らとの出会いによって、玄白たちが自分を見つめ直し、『ターヘル・アナトミア』を翻訳した『解体新書』を出せたことに気づかせたい。また、授業の終末には、80歳を過ぎて著した『形影夜話』の抜粋も紹介し、腑分けの経験が、身分制度にもとづく社会の中であって、玄白自身のものの見方や考え方に大きく影響を与えたことに気づかせたい。この2つの資料は、児童が理解しやすいように現代語訳を用いるが、史実を曲げないように留意して活用する。この学習を通して、近代医学の発展には、「ことなる身分とされた人々」の優れた技術や業績があったことを理解させるとともに、こうした人々の素晴らしさに触れた玄白たちの思いや考えに共感させ、人を差別することの間違い・差別の無意味さに気づかせたい。

3 人権の視点

- 労働を通して優れた知識や技術を身につけてきた「ことなる身分とされた人々」が、近代医学の発展の道を開いた史実を知る。とともに、「ことなる身分とされた人々」と出会うことで、これまでもっていた偏見や差別の無意味さに気づいた玄白たちのものの見方や考え方から、偏見をもつことなく接することが差別を解消し、人権尊重社会の実現につながるということ。

4 本時の目標

- 実際の執刀者である「老人」の姿から、「ことなる身分とされた人々」が労働を通して優れた知識や技術をもち、当時の医学の発展に貢献したことを理解する。
- 玄白が残した資料から玄白が老人をどう見ていたかを考えることを通して、人を差別することの

間違い・差別の無意味さに気づく。

5 本時の展開

児童の活動	教師の指導及び留意点 ◇教師の評価	備考
<p>1 2つの人体図を比べて気が付いたことを話し合う。</p> <p>2 『解剖のようす』の挿絵から解剖の場にいた人々に出会う。</p>	<p>○現在の人体図は「ターヘル・アナトミア」に近いことに気づかせる。</p> <p>○絵を見て分かったことや気が付いたことを発表させる。</p>	<p>(全体) 『類経図翼』 『ターヘル・アナトミア』 『解剖のようす』</p>
<p>解剖をした老人を玄白はどのように見ていたのだろう</p>		
<p>3 『蘭学事始』を読み、老人の人となり話し合う。</p> <p>(1) なぜ玄白は自らメスをふるわなかったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験がなかった ・死に対する恐れがあった ・特別な仕事だったから ・知識もなかった ・死体を解剖するのはする人がきめられていた <p>(2) 玄白たちはこの老人をどう見ていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すばらしい技術をもった老人だ ・この経験をぜひ生かして翻訳したい ・間違った考えをしていたのかも… ・人体には身分による違いなんてない 	<p>○自分の考えをワークシートに記入させて発表させる。</p> <p>○自分の考えをまとめられない児童には、分かるところから書くよう助言する。</p> <p>○思考を深めやすいように「老人」と「玄白」を対比しながら考えさせる。</p> <p>○牛馬を解体して皮革を生産する仕事や、死者を葬る仕事などに携わった人々が、優れた解剖技術を持ち合わせていたことや差別を受けていたことをおさえる。</p> <p>○「健やかな老人」という言葉の意味を考えるを通して、玄白がこの老人を高く評価していたことに気づかせる。</p> <p>○能力があっても職業の選択ができなかったことをおさえる。</p> <p>◇老人が技術を要する仕事に誇りをもって携わっていることや、近代医学の発展に貢献したことに気づかせることができたか。</p>	<p>(全体) 『蘭学事始』 ワークシート</p>
<p>4 『形影夜話』を読み、玄白自身が人を差別することの間違い・差別の無意味さに気づいたことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間は平等だと言っている ・身分による差別は不合理だと感じている 	<p>○玄白が書いた『形影夜話』の言葉を紹介する。</p> <p>○現代語訳したものを使用するが、困難な語句については解説する。</p> <p>◇人を差別することの間違い・差別の無意味さに気づかせることができたか。</p>	<p>(全体) 『形影夜話』</p>

(取組の主体や実施体制)

取組の主体：神岡小学校研修部

実施体制：人権教育の手引書編集委員会、たつの市民化推進協議会、たつの市教育委員会人権教育推進課、京都教育大学教授（現鳥取環境大学教授）外川正明さんと連携して実施

(取組を実現するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じたこと)

教師が何をねらい、何を教えたいかを大切にしなければ焦点の定まらない学習になってしまう。また、近年、差別の歴史の研究が進み、教科書の表記も変わってきている状況下では、教師自身がかつて学んだ知識にとらわれて授業を展開すれば、誤った知識を植え付けてしまう可能性がある。

そこで、差別されていた人々が日本の文化の礎を築いたり、医師や芸能の発展に寄与したりしたことを学ばせ、過去にあった差別の実態を知るだけにとどめず、自分の生き方・考え方を見直すための学びとなるように実施体制を組み検討を重ねた。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

この学習を進める中で、子どもたちは「血統や家柄、性別で人を評価する事は間違っている。人間を人格や能力で評価することが大事である。」と気づくことができた。

(取組が効果を上げた実際の事例) (児童の日記より)

- ・ Aさんは休み時間ずっと絵を描いて一緒に遊んだことがないけど、絵がとても上手い。今度絵を上手に描くコツを教えてもらおうかな。
- ・ Kさんはいつもふざけているけど、園児との交流ではとても優しく、いいお兄ちゃんだった。
- ・ 僕は走るのが嫌いです。Mさんが速く走れるのは生まれもったものが僕とは違うと思っていました。でも、毎日放課後や夜に走っていることを親から聞いて、僕もMさんみたいにはなれないかもしれないけど、がんばってみようと思いました。

(取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項)

- ・ 前半には、あまり時間をかけずに『形影夜話』で「健やかな老人」について十分に時間をかけたことが児童の思考を深めさせた。
- ・ 玄白が言った言葉について自分はどう思うかを考えさせたことにより、自分の事として振り返らせることができた。
- ・ 本時の4のステップで、児童に意見交換をさせたことが、自分の考えを深めさせることにつながった。
- ・ 「健やかな老人」についても、さらに自分の考えを出させるなど、教師がファシリテーター役でシェアリングしていく方法が効果的であった。さらに、児童が発言した内容の根拠を言わせることにより、差別することの間違いや無意味さを捉えさせることができた。

5. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及びそう評価する理由)

この時代のみをクローズアップしたのではなく、中世からの差別の歴史を丁寧に扱い、当時の資料をもとに子どもたちにわかりやすい学習資料を提供した。その結果、子どもたちは歴史的事実を正しく知り、偏見をもつことなく接することが差別を解消することであると理解することができた。

(保護者や地域住民からの反応)

- ・ 自分が子どもの頃に学んだ時は、同和問題に対して暗いイメージが先行していたが、今回の授業を見て明るい部分に焦点を当てていたので、自分も子どもの頃にこのような学習をしたかったと強く思った。これからは人権の歴史について正しい事実を学ぶ必要があると感じた。
- ・ この授業はこれまでにない流れをくむ学習で、大変勉強になった。

(現在、実施にあたって課題と感じていること)

今回の取組によって、同和問題にかかる歴史的背景や職業に対する正当な評価を学習する機会が持てた。このことを知ることによって、差別や偏見に対して「間違いである」とはっきり言うことができる根拠を持たせることができた。しかし、差別や偏見は児童が直面しているあらゆる生活の場面で起こり、見逃されている。実生活の中で、学級や地域、職業の中にある差別に気づき、自分からNOと発信できる力を身につけさせることが今後の課題である。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

たつの市立神岡小学校

人権教育の手法については、人権一般の普遍的な視点からのアプローチと、具体的な人権課題に即した個別的な視点からのアプローチとがある。この両者を車の両輪のように年間指導計画に位置付けて実践することにより、人権尊重の理念についての理解を深めることができる。

小学校第6学年社会科では、どの学校においても「江戸幕府と身分制度」「新しい文化や学問のおこり」の学習に取り組んでいる。本実践事例を通して、これまで指導してきた各教科等の学習についても、人権教育の視点から見直すことにより、人権教育の実践として位置付けられるということがわかる。

本事例は、人権課題「同和問題」に関わる実践であり、個別的な視点からのアプローチについて「どの人権課題を、どの教科で、どのように取り上げてよいかわからない」という声に応える内容であることから、今後、他の地域・学校への波及効果が期待できる。